

市民に人気の地形・地質

<小 泉 武 栄>

一般市民にジオツアー（地学野外巡検）の人気はきわめて高い。これまでとくに評判のよかった露頭や地形景観を集めてみた。

写真1 酒沢カール

北アルプス穂高岳の北面に生じた日本最大級のカール（写真の左側）。氷期にはここに氷がつまっていた。左下に見えるのはモレーンの高まり。写真の右側にみえる小さなカールは北穂高岳のカール。



写真2 鳥海山の馬蹄形カルデラ

秋田・山形県境にそびえる鳥海山では、2,500年前、大崩壊が起こり、その跡が馬蹄形の窪みとなった。崩壊した岩屑は日本海に達して象潟の多島海をつくった。象潟は1804年の地震で隆起し、現在のような姿となった。奥の白く見える部分が象潟。



写真3 宗谷丘陵の周氷河地形

この幼年期地形を思わせる地形は、氷期に形成された周氷河性の波状地である。後氷期の侵食により、谷が入り始めている。

写真4 牛群地形

東京都昭島市を流れる多摩川の八高線鉄橋のすぐ下にてきた、川の侵食地形。洪水による侵食には意外に強いが、霜柱による削剥によって痩せつつある。



写真5 甌穴

岐阜県東部を流れる飛騨川はチャートの固い岩盤を削りこんで流れており、川沿いにある岩石段丘の上には見事な甌穴のみられる場所が少なくない。

写真は七宗町ひちそうで撮影したもので、天然記念物に指定されている。



写真6 日本最古の岩石

岐阜県七宗町上麻生の飛騨川の沿いにある上麻生礫岩には、約20億年前といわれる大陸起源の片麻岩やオーソコーツァイトの礫が含まれている。人物の後ろの茶色の岩が礫岩である。



写真7 犬山のチャート

岐阜県犬山市の木曾川の河畔には縞状になったチャートが露出している。全体に赤い層が卓越するが、一部に黒く変色した部分があり、古生代末の海で起こった、酸欠による生物の大量絶滅の証拠とされている。